

校長室だより～和光高校今昔 第4号 H26.6.4

埼玉県立和光高等学校 校長 村田 進

龍神伝説にまつわる話

和光高校制服のエンブレムには龍の図柄が描かれています。英国風のブレザーに紋章のエンブレムは必須ですが、なぜ龍のデザインかについて新制服導入時の経緯を含めてお伝えします。

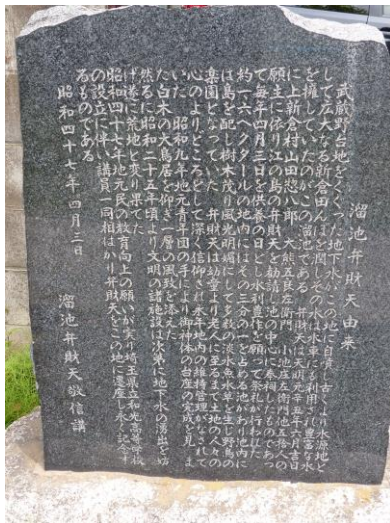


現在の和光高校の敷地周辺はかつて沼でした。今と変わらず田畑が広がっていたこの地では灌漑用水としてこの水を利用していました。この地では次のような話が伝わっています。

「昔、この地に美しい水をたたえた池がありここに暮らす村人は平和に過ごしていた。ある年の夏、日照りが続き、田畑は枯れ作物が取れず飢えに苦しんでいた。困り果てた村人が池のほとりに祀られていた弁天様に祈願したところ、龍が飛び出し空を舞いあがり、雲を呼び恵みの雨を降らせた」

これが、和光市字溜池（和光高校の旧地名）周辺に伝わる「龍神伝説」です。

かつて和光高校に勤務した日本史の菅原達志教諭（物故）が学校近くの金泉寺などで地域の伝承を調べ、この話を見出し広く紹介しました。文化祭などでたびたび



「龍」はモチーフとしてテーマ

やアーチ、装飾などに採用されてきました。平成3年に制服を検討していた増田義治教諭（国語科教諭・本校第6期生、ファッションに精通）らがエンブレムのデザインにこの地を象徴する龍を取り入れたのも必然かもしれません。



ちなみに、和光高校建設に伴い、沼のほとりにあった弁天様を祀（まつ）っていた祠（ほこら）は学校の正門そばに移転されました。現在でも「弁財天社」として地域から信仰されています。